

令和 7(2025)年度 一般社団法人 神奈川県知的障害施設団体連合会 事業報告

I 概要

神奈川県知的障害施設団体連合会(以下、当連合会)は、令和 5 年 2 月 1 日に一般社団法人として設立登記が完了し、事業を開始してから令和 7 年度で 3 年が経過しました。4 県市協会をまとめるオールかながわの連合組織として各事業を推進しました。

世界では、4 年前から続くウクライナ情勢と、令和 8 年 2 月末からの中東情勢は、国際法を無視した力による現状変更であり、世界平和を揺るがす由々しき問題となっています。原油不足による世界的な物価高騰は経済を打撃し、安心できる暮らしや活動を脅かしています。「ともに生きる社会」の実現の難しさを物語っています。また、人口減少社会が進む中で人材確保、定着の困難性は、利用者ご本人への支援サービスの質と量に直結する喫緊の課題となっています。物価高騰と賃金上昇による経費増大の影響は、公定価格による福祉サービス事業にとってはさらに厳しい運営を強いられる状況となりました。特にコロナ禍を経て全産業の平均賃金と福祉従事者との賃金格差はますます広がりました。そのため処遇改善加算の要望等を各福祉関係団体とともに行政へ働きかけ、国は令和 7 年 12 月以降 6 ヶ月分の前倒し改定と、令和 8 年度分への処遇改善加算増額の予算化にこぎつけました。また、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を原資に物価高騰に係る補助金が県市において令和 8 年度に繰越しながらも対応いただきました。

やまゆりの日については、津久井やまゆり園事件から 9 年を迎えました。令和 7 年 7/23

(水) 県社会福祉センター3 階研修室で「やまゆりの日 追悼・講演会～共生社会の実現に向けて～」を開催しました。多数のご来賓と会員関係者で会場参加 114 名。追悼式では黙祷の後、主催者より「あおぞら宣言」と共に挨拶し、来賓として日本知的障害者福祉協会(以下、日知協)樋口会長、関東地区知的障害者福祉協会山下会長、県社会福祉協議会小泉会長よりご挨拶をいただきました。続いてかながわ共同会より津久井やまゆり園、同愛会・白根学園より芹が谷やまゆり園の近況報告、行政説明では県障害サービス課より「今後の県立障害者支援施設のあり方について」の説明がありました。講演では、独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園の理事長であられる田中正博様より「保護の客体から権利の主体へ～他の者と平等に生きる権利の保障に向けて」についてご説明をいただき、福祉の原点や、「支えの信条」に裏打ちされた意思決定支援のあり方、著しい行動障害の状態にある方の支援、のぞみの園の様々な取組みが示され、今後の福祉の方向性とあり方について考えさせられ感銘を受けました。このたびの「やまゆりの日」は、オールかながわの福祉施設・事業所、行政、関係者一同が、改めて「ともに生きる社会」の実現に向けて、決意を確認する日となりました。神奈川県社会福祉協議会様には共催していただき会場使用の配慮と協力をいただきました。

神奈川県・相模原市・かながわ共同会が主催する「津久井やまゆり園事件追悼式」は令和 7 年 7/26(土)に行なわれ、当連合会として出縄氏、今井氏が出席しました。

オールかながわで主催している「第 40 回神奈川県障害福祉職員実践報告会」について令和 7 年

度は 12/20(土)に県社会福祉センター全館貸切で開催。テーマは「福祉の楽しさ魅力の「発進」～現場実践から伝える神奈川品質～」と題して、県内の障害福祉サービスに携わる職員・講師・役員の計 281 名が参加。午前の基調講演は、日本女子大学人間社会学部教授の久田則夫氏による「誇りと喜びをもって働く福祉のプロとなるために取り組むべきこと～セルフ・リーダーシップのススメ～」をテーマにご講演いただき、福祉現場にある諸課題の解決の糸口を示され、当事者ご本人の人生をリスペクトして、愛をベースに接する福祉のプロとなるためのご教示に参加者一同感銘を受けました。午後の分科会は「児童発達支援部会」「障害者支援施設部会」「日中活動支援部会」「生産活動・就労支援部会」「地域支援部会」「相談支援部会」「支援スタッフ部会」の 7 分科会に分かれて、テーマ別の実践報告、意見交換、グループワーク等を活発に行い、障害福祉にかかわる職員の支援力向上を図る貴重な研修会となりました。神奈川県社会福祉協議会様には共催いただき休館日の全館使用などの協力をいただきました。(第 40 回 神奈川県障害福祉職員実践報告会の報告集は当連合会 HP 会員ページに掲載してあります)

日知協「第 12 回全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクール」については、当連合会として 4 県市協会の地区ごとにリーフレット等の案内資料を行政、教育委員会、学校等に配布して、県内の小中学校に呼びかけました。今年度より私立学校も加えました。その結果、小学校の部 192 作品、中学校の部 68 作品の計 260 作品の応募をいただきました(昨年度は 41 作品)。この応募数は全国でもトップでした。

審査は、当連合会を構成する 4 県市協会から選任された 8 名の選考委員会で行われ、小学校の部 20 作品、中学校の部 10 作品を日知協へ推薦しました。日知協の選考委員会の審議を得て、全国から集まった 1,532 作品の中から、令和 7 年度会長賞の小学生の部で横浜市の小学校 6 年生 梅村あゆさんが受賞、会長賞の中学生の部で川崎市の中学生 3 年生 蓬田竜平さんが受賞されました。入選は小学校の部 4 作品、中学校の部 5 作品。学校賞の小学生の部は、応募数が 180 作品と一番多かった秦野市立末広小学校が受賞、学校賞の中学生の部は、応募数が 34 作品と一番多かった平塚市立太洋中学校が受賞されました。

表彰状及び記念品の贈呈については、学校賞の小学校は県域協会理事の早坂氏が令和 8 年 1/27(火) 秦野市立末広小学校へ、学校賞の中学校は県連合会の出縄会長、県域協会総務の村山氏が令和 8 年 2/5(木) 平塚市立太洋中学校へ届けました。会長賞の小学生の部は県連合会の斎藤副会長、阿部理事が令和 8 年 3/11(水) 横浜市の小学校を訪ね全校放送朝会で梅村さんに贈呈。会長賞の中学生の部は県連合会の出縄会長、牧田理事が令和 8 年 3/6(金) 川崎市の中学校を訪ね校長室で蓬田さんに贈呈。受賞された生徒さん、保護者、校長、担任教諭には大変喜んでもらい、教育と福祉の連携が「ともに生きる社会」の啓発のために重要であることを実感しました。

防災については、広域災害時の対応として災害対策計画による防災対策委員を中心に地域防災委員会を設置しています。当連合会は、かながわ災害福祉広域支援ネットワークの構成団体として、神奈川県災害派遣福祉チーム(神奈川 DWAT)の創設に協力することを神奈川県と基本協定を令和 3 年 1/26 締結以降、令和 7 年度も引続き会員施設へ参加を呼びかけました。当連合会事務局がある神奈川県社会福祉センターを防災の拠点として活動しました。かながわ災害福祉広域支援ネ

ネットワークの連絡会には5/27（火）ZOOM会議、10/14（火）対面、2/9（月）ZOOM会議に参加。研修については、公開講座、DWAT ステップアップ研修、DWAT スキルアップ研修に参加。訓練にも参加しました。神奈川 DWAT のチーム員登録数計 330 名のうち当連合会会員は 55 名となりました。令和 6 年度に実施した能登半島地震に係る応援職員派遣事業の実績、経験をもとに、令和 7 年度は地域防災委員会を中心に防災救援体制の強化に向けて検討を進めました。政府は、能登半島地震の教訓なども踏まえ災害対策基本法や災害救助法などの法律を改正しました。福祉支援の充実やボランティア団体との連携強化が図られ、「災害派遣福祉チーム」の活動範囲が避難所以外にも拡大し、福祉避難所への誘導、在宅や車中泊での避難者にも必要な支援がすぐ届くようにしました。「災害派遣福祉チーム」に求められる機能や役割が拡大しましたので、認識を新たに推進しました。地元、市町村、県内、県外とエリアごとにつながるネットワークが重要と考え、そのために日常からつながり顔の見える関係の構築に努めました。

3 年ごとに実施される障害福祉サービス等報酬改定は令和 6 年度より加算、減算等の条件が修正、追加されるなど、基本報酬は細分化により抑制された一方で、重度障害者支援加算等は条件が整えば報酬増につながり 2 極化する傾向がありました。加算の多くは基準以上の人員配置が求められることから、現状の人材確保の困難性からは有効な条件ではありません。次の報酬改定に向けて当連合会は、（公財）日本知的障害者福祉協会の地方会として関東地区知的障害者福祉協会と共に、会議及び研修会において現状の調査、分析と今後の要望、提言に努めました。

人権と権利擁護については、人権委員会が年 5 回の会議を重ね、毎年開催している新人職員対象の「人権研修会」は（社福）同愛会 高山理事長を講師に招いて令和 7 年 7/29（火）ZOOM 開催し、89 名の参加を得ました。利用者ご本人参加の「あおぞら意見交換会」は令和 8 年 3/2（月）ZOOM 開催し、70 名の参加者が「あなたのこと、教えてください」をテーマに活発に話し合いが行われました。オンブズマンネットワーク交流研修会は令和 8 年 1/26（月）ZOOM 開催され、101 名が参加されました。障がいのあるご本人の権利擁護、意思決定支援の取組みの原点は当連合会が 1994 年に策定した「あおぞらプラン」にあります。この精神を具現化するための宣言、計画の周知、浸透に引き続き取り組みました。

神奈川県社会福祉協議会が新築した神奈川県社会福祉センター（以下、県センター）に入居する福祉団体の賃借料について、令和 3 年 7 月に沢渡から移転して 5 年間は半額減免措置の補助金が県より県社協経由でありました。しかし、令和 8 年度からは全面見直しの方向性が県担当課より示されました。よって、令和 7 年度は様々な会議の折衝のなかで、県センターは神奈川福祉の拠点であり防災拠点でもあること、各団体が入居する意味合い、顔の見えるネットワークの重要性、他都道府県との比較も提示し、福祉先進県としてのあり方を訴え、入居する 11 福祉団体がまとまり、当連合会が代表となり請願書を県議会へ提出。審議の結果採択され、令和 8 年度以降も現状通りの水準で補助金が延長されることになりました。ご協力いただきました関係者皆様に感謝いたします。

神奈川県は津久井やまゆり園事件の教訓から、「ともに生きる社会かながわ憲章」を経て、令和5年4月に「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」を施行しました。しかし、令和5年度以降は、県立施設で複数の虐待案件が判明。特に中井やまゆり園の改善途中の令和6年7月に、長期入所を希望していた利用者ご家族の願いが叶わず県外へ引越した後、親御さんがご子息を殺めてしまうという悲劇を招いてしまいました。県として検証チーム報告書を令和7年6月に出しましたが、県立施設のみならず民間施設も含めた福祉サービスのセーフティネットが機能しなかったことを意味しておりオールかながわとして忸怩たる思いがあります。さらに中井やまゆり園では、令和7年度後半には内部告発による調査で法令違反が判明、個別支援計画作成手続の不備が公表されました。神奈川県は、このような中で中井やまゆり園の運営主体そのものを直営から地方独立行政法人に移行する準備を令和7年度中に進め、令和8年4月より「神奈川県立福祉機構」としてスタートさせました。人材確保の観点から民間法人からの人材流出もあり大きな影響と懸念が表出しました。改めて神奈川の障がい福祉のセーフティネットの再構築のために、オールかながわで県立(機構・指定管理)・民間のあり方や機能、役割をはじめ職員の処遇改善のあり方も含めて見直す必要があることを十分認識し、今後とも意見交換を図ってまいりたいと思います。

以上

II 事業の実施状況

1. 理事会・総務委員会等の開催

第1回 総務委員会 4月14日(月) 10:00～12:00 ZOOM開催

第1回 理事会 4月25日(金) 10:00～12:00 ZOOM開催

- ① 県行政に関する事
- ② 役員体制に関する事
- ③ 日本知的障害者福祉協会に関する事
- ④ 能登半島地震被災地への人的支援に関する事
- ⑤ 県社会福祉センター入居者団体活動支援事業費補助の見直しに関する事
- ⑥ 令和6年度事業報告・決算、令和7年度事業計画・予算に関する事
- ⑦ 社員総会に関する事
- ⑧ やまゆりの日講演会に関する事

第2回 総務委員会 6月13日(金) 10:00～12:00 ZOOM開催

第2回 理事会 6月20日(金) 10:00～12:00 ZOOM開催

- ① 県行政に関する事
- ② 令和6年度事業報告・決算、令和7年度事業計画・予算に関する事
- ③ 県社会福祉センター入居者団体活動支援事業費補助の見直しに関する事

- ④ やまゆりの日講演会に関する事
- ⑤ 第40回神奈川県障害福祉職員実践報告会に関する事
- ⑥ 社員総会に関する事
- ⑦ 全国小中学生障がい福祉ふれあい作文コンクールに関する事

令和6年度 社員総会 6月27日（金）13:30～15:30

議決権のある社員総数 440 名 出席社員数（委任状による者を含む） 257 名

- ① 令和6年度事業報告・決算、令和7年度事業計画・予算の承認に関する事
- ② 役員の選任に関する事
- ③ やまゆりの日講演会に関する事
- ④ 第40回神奈川県障害福祉職員実践報告会に関する事
- ⑤ 報告事項

第3回 総務委員会 10月17日（金）10:00～12:00 ZOOM開催

第3回 理事会 10月31日（金）10:00～12:00 ZOOM開催

- ① 県行政に関する事
- ② 県内人権侵害報告に関する事
- ③ 日本知的障害者福祉協会に関する事
- ④ 県社会福祉センター入居者団体活動支援事業費補助の見直しに関する事
- ⑤ 全国小中学生障がい福祉ふれあい作文コンクールに関する事
- ⑥ 第40回神奈川県障害福祉職員実践報告会に関する事

第4回 総務委員会 2月20日（金）10:00～12:00 ZOOM開催

第4回 理事会 2月27日（金）10:00～12:00 ZOOM開催

- ① 県行政に関する事
- ② 県内人権侵害報告に関する事
- ③ 全国小中学生障がい福祉ふれあい作文コンクールに関する事
- ④ 第40回神奈川県障害福祉職員実践報告会に関する事
- ⑤ 令和8年度やまゆりの日講演会に関する事
- ⑥ 役員改選、会長選定に関する事

監事監査は6月3日（火）近藤総務委員長が河原氏、出口氏を訪問し実施。

2. 連合会事業の実施

(1) やまゆりの日講演会

7月23日(水) 13:30～16:10 神奈川社会福祉センター 3階研修室 114名参加

追悼式 司会：飯山文子理事

1. 黙祷

2. 主催者挨拶・あおぞら宣言

会 長 出縄 守英 氏

3. 来賓挨拶 公益財団法人日本知的障害者福祉協会

会 長 樋口 幸雄 様

関東地区知的障害者福祉協会

会 長 山下 望 様

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

会 長 小泉 隆一郎 様

4. 来賓紹介 神奈川県知的障害者施設保護者会連合会

会 長 大矢 武久 様

神奈川県手をつなぐ育成会

副会長 杉野 仁 様

一般社団法人やまゆり知的障害児者生活サポート協会

理事長 市川 高弘 様

特定非営利活動法人神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会

事務局長 山口 明美 様

神奈川県民間知的障害施設団体連合会

会 長 目黒 裕 様

特定非営利活動法人神奈川セルフセンター

理事長 鈴木 暢 様

神奈川県身体障害施設協会

会 長 生田目 昭彦 様

報 告

津久井やまゆり園報告 社会福祉法人かながわ共同会

理事長 山下 康 氏

津久井やまゆり園

園 長 永井 清光 氏

芹が谷やまゆり園報告 社会福祉法人同愛会・白根学園

芹が谷やまゆり園

園 長 斎藤 喜美夫 氏

神奈川県より

「今後の県立障害者支援施設のあり方について」

神奈川県 福祉子どもみらい局 福祉部 障害サービス課

運営指導グループ グループリーダー

堤 庸之 氏

講 演

「保護の客体から権利の主体へ

～他の者と平等に生きる権利の保障に向けて」

独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

理事長 田中 正博 様

閉会のことば

副会長 今井 康雅 氏

(2) 新任職員人権研修の実施

7月29日(火) ZOOM 開催 89名参加

講師 社会福祉法人同愛会 理事長 高山 和彦 氏

(3) 第40回神奈川県障害福祉職員実践報告会

「福祉の楽しさ魅力の『発進』～現場実践から伝える神奈川県品質～」

12月20日(土) 神奈川県社会福祉センター 281名参加

基調講演 「誇りと喜びをもって働く福祉のプロとなるために取り組むべきこと
～セルフ・リーダーシップのススメ～」

日本女子大学 人間社会学部 教授 久田 則夫 氏

分科会	第1分科会	児童発達支援部会	34名参加
	第2分科会	障害者支援施設部会	60名参加
	第3分科会	日中活動支援部会	41名参加
	第4分科会	生産活動・就労支援部会	22名参加
	第5分科会	地域支援部会	41名参加
	第6分科会	相談支援部会	23名参加
	第7分科会	支援スタッフ部会	45名参加

(4) 支援スタッフ部会の実施

第1回 5月22日(木) 役員会 ZOOM開催 10名参加

令和6年度事業報告、令和7年度事業計画、活動内容の検討

第2回 8月27日(水) 研修会

横浜市西公会堂 64名参加

「虐待防止・身体拘束廃止研修～自分の周りの支援を振り返ってみよう～」

講師：近藤 誠 氏 (日本知的障害者福祉協会 権利擁護委員会委員長)

/(福)県央福祉会 常務理事 海老名市立わかば会館 館長)

第3回 11月4日(火) 研修会

横浜市西公会堂 45名参加

「社会モデルに基づいた意思決定支援」

講師：谷内 孝行 氏 (桜美林大学 健康福祉学群 社会福祉学専攻 准教授)

第4回 1月26日(月) 研修会

横浜市西公会堂 19名参加

「ロボット介護機器・ICTの効果的な活用について～福祉現場における業務改善と生産性向上について」

講師：得永 真人 氏 ((公社)かながわ福祉サービス振興会 かながわ福祉総合研究本部
介護・生活支援ロボット普及推進協議会 事務局 本部長)

第5回 3月10日(火) 役員会 ZOOM開催 6名参加

令和7年度実施例会についての反省、各地区の活動報告等について

※研修会の実施にあたっては、チームを構成し事前の打ち合わせ、講師との打ち合わせを
ZOOMで7回実施

(5) 事務研修部会の実施

研修会 9月11日(木) 14:00～ 保土ヶ谷公会堂 22名参加

「福祉業界における求人トレンドと採用市場の実態」

(株)リレイティブ 取締役 神永 智昭 氏

研修会 11月28日(金) 14:00～ 保土ヶ谷公会堂 32名参加

「事務員にとっての使命と役割、必要なこと」

福祉・医療コンシェルジュ (株)小泉 あずさ 氏

幹事会 2月13日(金) 15:00～ 偕恵岩間ワークス地域交流室

研修会 2月25日(水) 14:00～ 保土ヶ谷社協(かるがも) 25名参加

「令和7年度以降の労務関連法改正のポイント」

社会保険労務士 倉田 裕一 氏

3. 人権擁護の取り組み

(1) 合同人権委員会の開催

① 4月11日(金) 13:00～15:00 ZOOM 開催

② 5月2日(金) 15:00～17:00 かながわ県民サポートセンター701

③ 7月11日(金) 10:00～11:30 ZOOM 開催

④ 10月9日(木) 13:00～14:30 ZOOM 開催

⑤ 3月2日(月) 15:30～16:00 ZOOM 開催

この他、調査研究担当、セルフアドボカシ部会で随時打合せを実施

(2) 情報共有

会員施設での虐待案件等についての役員間での情報共有

(3) オンブズマンネットワーク交流研修会

1月26日(月) ZOOM 開催 101名参加

(4) あおぞら意見交換会

3月2日(月) ZOOM 開催 70名参加

テーマ:「あなたのこと、教えてください」

ZOOMのブレイクアウトルーム機能を活用しグループワークでの話し合いの実施

4. 防災に関する意見交換

(1) 防災対策委員会

1月14日(水) かながわ県民センター306 会議室 11名参加

・県地域福祉課災害福祉グループとの意見交換

・現在の圏域ごとの取り組み状況について

・令和8年度の取り組みについて

(2) かながわ災害福祉広域支援ネットワーク

①連絡会

5月27日(火) 14:00～15:30 ZOOM 会議

10月14日（火）10:00～12:00 県社会福祉センター3階

2月9日（月）10:00～12:00 ZOOM会議

②研修

公開講座	12月5日（金）ZOOMによるオンライン研修	145名参加
DWAT登録研修	7月24日（木）ZOOMによるオンライン研修	
DWATステップアップ研修	11月19日（水）ZOOMによるオンライン研修	35名参加
DWATスキルアップ研修	1月9日（金）県社会福祉センター	34名参加

③訓練

情報伝達訓練	8月21日（木）～22日（金）
派遣調整訓練	2月25日（水）
派遣実動訓練	8月25日（月）平塚
	8月28日（木）茅ヶ崎（福祉避難所設営）
	8月31日（日）川崎
	9月22日（月）茅ヶ崎（防災フェスタ）
	10月18日（土）茅ヶ崎（車中泊避難）
	11月9日（日）ビッグレスキューかながわ、三浦
	11月11日（火）葉山

④その他

神奈川 DWAT 先遣隊及びチームリーダー候補者連絡会	6月12日（木）
神奈川 DWAT 事務局主催 ロールプレイ訓練	12月7日（日）
災害福祉広域支援ネットワーク主催 1都3県合同研修会	1月26日（月）

（3）神奈川DWATの締結について

・チーム員登録数 55名

5. 日知協・関東地区協会の関連

- （1）関東地区会長・事務局長会議 5月1日（木）日本知的障害者福祉協会会議室
（出縄・斎藤・横山・今井・近藤・伊藤・牧田）
- （2）日本知的障害者福祉協会定時評議員会 6月18日（水）浜松町コンベンションホール
（出縄）
- （3）関東地区知的障害関係職員研究大会 7月3日（木）4日（金）茨城県
- （4）全国知的障害関係施設長等会議 7月10日（木）11日（金）東京国際フォーラム
- （5）全国会長・事務局長会議 10月29日（水）30日（木）浜松町コンベンションホール
（出縄・近藤）
- （6）関東地区知的障害関係施設種別代表者会議 11月6日（木）7日（金）栃木県
（4県市協会から会長・総務委員長・各部会代表者が出席）
- （7）全国知的障害福祉関係職員研究大会 11月27日（木）28日（金）福島県
- （8）部会協議会・支援スタッフ代表者会議 3月5日（木）6日（金）TOC有明コンベンションセンター
（大永・脇田・長谷川・古瀬・森下・山崎・福岡・小清水・椎原・平田・河原・老沼）

6. 第12回全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクール

①募集 6月1日から9月19日 応募数：小学生192作品 中学生68作品

②選考 10月15日（水）14:00～15:00 ZOOM開催

③選考委員 早坂（県域・くず葉学園）、村山（県域・進和あさひホーム）
村井（県域・藤沢サンライズ）、柴田（県域・湘南つつみ苑）
阿部（横浜・恵和館）、村山（相模原・松が丘園）
横山（川崎・川崎授産学園）、牧田（川崎・くりの丘）

④表彰の授与

会長賞 横浜市立三保小学校6年 梅村あゆさん
3月11日（水）訪問（斎藤・阿部）
川崎市立塚越中学校3年 蓬田竜平さん
3月6日（金）訪問（出縄・牧田）

学校賞 秦野市立末広小学校 1月27日（火）訪問（早坂）
平塚市立太洋中学校 2月5日（木）訪問（出縄・村山）

入選（小学生4作品、中学生5作品）は日本知的障害者福祉協会より賞状・副賞が贈られた

7. 神奈川県との連携

（1）理事会・総務委員会での情報共有

連合会及び県域協会の理事会、総務委員会に随時出席いただき、情報共有を行った

（2）津久井やまゆり園事件追悼式 7月26日（土）（出縄・今井）

（3）神奈川県障がい者施策説明会

3月30日（月）書面開催のため、ホームページへの掲載を周知

8. 他団体との連携

（1）神奈川県障害児者団体連絡協議会運営委員会

5月29日（木）かながわ県民センター711（横山・今井・出口）

（2）一般社団法人やまゆり知的障害児者生活サポート協会

理事会

5月29日（木）かながわ県民センター711（横山・今井・出口）

6月13日（金）県社会福祉センター401（横山・今井・出口）

9月24日（水）かながわ県民センター304（斎藤・横山・今井・出口）

3月26日（木）かながわ県民センター1501（出縄・今井・出口）

三者会議

9月24日（水）かながわ県民センター304（斎藤・横山・今井）

三役会

3月3日（火）かながわ県民センター603（出縄）

(3) 神奈川県手をつなぐ育成会総会

4月18日(金) かながわ県民センター305(出縄)

(4) 一般財団法人かながわパラスポーツ協会

一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会は、令和6年11月に登記を終え、翌年の1月中に、一般財団法人かながわパラスポーツ協会へと名称や法人格の変更がなされました。他県の障がい者スポーツを支える団体名の多くはパラスポーツという名称が多く使用されパラスポーツという言葉が一般化されつつあることや、法人格をあげ活動をより発展されるためにリニューアルをいたしました。神奈川県知的障害施設団体連合会は、知的障がい者の長い歴史をもつ大会である県ゆうあいピック大会の実施の受け皿として役割を担う当団体の設立の準備や令和2年度団体設立当時より、かながわパラスポーツ協会の正会員及び理事の役割を担ってきております。令和7年度は、かながわパラスポーツ協会の初年度の活動で理事会、総会への参加をおこないました。また、当協会の自主事業として実施している「ゆうあいピック大会」も第42回大会を迎え、サッカーは23チーム、選手約340名、バスケットボールは26チーム、選手約270名、バレーボール・ソフトバレーボールは6チーム、選手約延150名、ソフトボール・ティールボールは10チーム、選手約延140名の選手が参加いたしました。かながわパラスポーツ協会は県からの委託を受けてパラスポーツ教室など様々な活動を展開しております。是非ともホームページをご覧ください、「みんなにスポーツを、みんなでスポーツを」を合言葉に多くの方にスポーツ活動に参加していただきたいと考えております。事務所は、県立スポーツセンター(アサンテスポーツパーク)、グリーンハウス内にあります。

以上